



今後の神戸掖済会の地域医療構想や働き方改革に向けた取り組みについて ～地域医療連携の推進～



平素より先生方には神戸掖済会病院の運営にご理解、ご協力いただき大変感謝申し上げます。新型コロナウイルスの第6波は減少傾向ですが、連休を機に少し増加するなど、いまだに高止まり感を呈しており、予断を許さない状況であります。今回の第6波ではコロナ病床以外の病床が逼迫し、救急車をはじめ、心筋梗塞や心不全、またその他の救急患者さんの受け入れ困難症例が発生してしまいました。これまで、当院では一つの病床をコロナ病床として12床で入院患者の受け入れ及び日帰り抗生療法を行ってきておりましたが、本年4月より一般病床として開くこととなりました。その病床の中にはコロナ感染者用の病床を3床設けて、コロナ入院患者もここで対応しております。またこれまでであった一般の発熱外来（予約）や、コロナのドライブスルーPCR検査、抗生療法の依頼など、いろいろな予約枠を設けてきましたが、徐々に整理していく方針で地域の先生には随時お知らせしていく予定となっております。

さて、この様な状況の中でも、厚生労働省は、国がこれまで進めてきた医療政策、いわゆる三位一体の改革（地域医療構想、医師偏差、働き方改革）を推し進めようとしています。2024年からの第8次医療計画からこれまでの5疾病5事業（癌、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患と救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）に興感染症対策を加えて5疾病6事業に設定しました。本年度の診

療報酬改定でも感染防止対策加算や外来感染対策向上加算など地域での病院、診療所など医療連携を強化させることにより政策医療を推進していることが見て取れます。急性期病院の立場で地域の医療提供体制を確保しようとする病院は急性期病床が過多であるという理由で、政策上の締め付けともいえる看護必要度や医師の働き方など多くの是正をもとめられ、これまでも運営努力を続けてきました。その過程で小児科や産婦人科の閉鎖など6事業の



内の周産期医療や小児医療に関して地域の先生には多大なご迷惑をおかけして参りました。今回の新興感染症対策に関しては感染対策向上加算1をとっていく方針ではあります。地域の医療機関とのカンファレンスや連携体制の確保等が必須であり、保健所や医師会との勉強会や情報共有が必要となっております。地域との連携強化のためのご案内や院内体制づくりがより一層求められる状況となり、院長としても今後地域の先生方とのコンタクトを密にすること

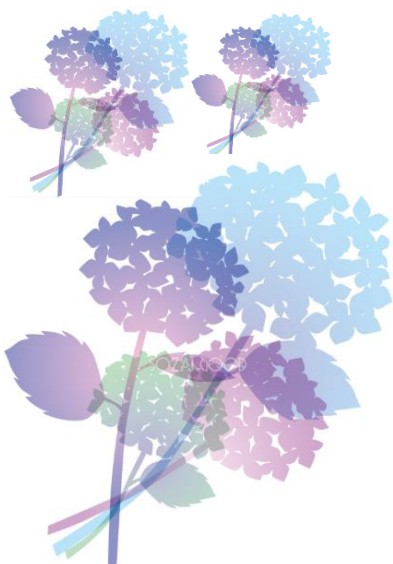
を努力して参ります。

また、これまで急性期医療として努力して参りました循環器疾患や脳外科疾患、救急科による病態悪化時の対応など急性期病院としての入院治療機能は維持、促進するためには、一般外来機能の整理を行わなければ働き方改革に対応できないと考えております。当院では比較的稳定した患者さんは出来るだけ地域でかかりつけ医を持ってもらい、通院、在宅で地域の先生方に御加療いただく方針を進めて行きたいと考えています。さらに地域医療連携を進める意味で常勤医ではありませんが、ある程度の専門外来を増やしていきたいと考え、高度医療機関につなぐべき患者さんは紹介させていただくなど、まずトリージ機能を促進したいと考えております。内科では総合内科や呼吸器、腎臓、さらにはこの春から消化器と呼吸器の腫瘍内科として外来を開かせていただいています。是非必要があればご紹介いただければ幸いです。さらにMRI（3テスラ）を一台導入しました。脳や整形疾患など地域の先生方のご診療にご利用ください。これらの検査をスムーズに行っていたためネットでの予約機能も進めて参ります。

高齢社会となり在宅医療が進められる中で地域の患者さんを守るため、当院は今後も地域連携を重要視していきたいと考えております

神戸掖済会病院

院長 藤 久和



新入医師 紹介 宜しくお願い致します



放射線科部長代理
(ごとう はじめ)
後藤 一

2022年2月1日付けで、医局の命で神戸百年記念病院より赴任いたしました後藤 一（ごとうはじめ）と申します。

出身地は九州で、父の仕事の都合で転勤が多かったのですが、小学4年以降は修羅の国小倉で大学進学まで過ごしました。

その後は関西内を転々といたしましたが、ここ20年ぐらいは神戸にじっと蟄居しています。

専門は放射線診断です。地域医療の診療活動の一助となればと思っております。

今後とも宜しくお願い致します。



整形外科医長
(わたなべ まお)
渡邊 真生

4月から異動で市立貝塚病院から赴任して参りました、整形外科の渡邊真生と申します。徳島大学出身で準硬式野球部でした。

これまでは人工関節の手術を中心にいろいろな病院で働いておりました。神戸掖済会病院では特に骨折の症例がとて多いため、併せて骨折手術にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

以前は草野球、スノーボード、サーフィンなど楽しんでいましたが、最近は全くできておらず体力の衰えを感じています。

まだまだ不慣れな点も多いとは思いますが、地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。



整形外科医員
(いもと けんた)
井元 健太

2021年10月より神戸掖済会病院へ赴任して参りました井元健太と申します。元々実家が垂水区で18歳まで生活しておりましたので、この地で仕事ができることを嬉しく思っております。

現在医師5年目で、大阪医科大学を卒業後し初期研修終了後は半年間大阪の救命救急センターで勤務し、2020年10月より大阪大学整形外科教室に入局しました。その後1年間堺市のペルランド病院で外傷を中心にかなりの手術件数を執刀したと思っておりますが、掖済会病院赴任後もほとんど変わらない手術件数を執刀させてもらっています。

また指導医の先生方の下、ほとんど執刀させてもらえなかった人工関節の手術も執刀させていただいており日々充実した生活を送らせていただいております。これも指導医の先生方を始め、当院スタッフの方々のサポートがあつてこそと思っております。

これからも外傷を中心に垂水区の医療に少しでも貢献できればと思っております。

宜しくお願い致します。



(あきた じゅん)
秋田 純

今年度より神戸掖済会病院で初期研修医として勤務させていただくことになりました秋田純と申します。出身は神戸市の垂水区で、鳥取大学医学部を卒業して6年ぶりに地元神戸で働くことを喜んでおります。在学中は剣道部に所属しており、剣道二段を持っていますが、コロナ禍のもと満足に稽古できない日々が続いており、すっかり体力が衰えたのを感じながら、なにか手頃な運動はないのかと悩む今日この頃です。神戸掖済会病院での研修が始まってはやくも2月が経ちますが、日々医局の先生方やコメディカルの方々にも優しくそして丁寧にご指導いただいております、非常に充実した研修生活を送れていると思います。ひとつひとつできることを増やしていきたい、信頼される医師になれるよう邁進して参りますので、今後ともどうかよろしくお願い致します。

研修医



(ひがし ゆうき)
東 佑樹

兵庫医科大学病院 協力型研修病院・大学プログラムで神戸掖済会病院に所属することになりました、東（ひがし）佑樹です。

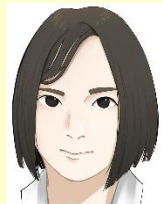
生まれは西区で育ちは京都府福知山市、出身高校は福知山高校、出身大学は兵庫医科大学です。

今までやってきた習い事や部活は、サッカー、野球、バスケットボール、軟式テニスで趣味はゴルフですがコロナ等で1年以上ゴルフクラ

ブを握れていません。

現在の志望科は眼科を考えています。初期研修は講義等の紙の上の勉強より、実際の臨床の場で学びたい、手技を多くしたいと思い当院を選びました。

まだ神戸市についてもわかっていない状況なので、早く新環境になれて、ここで十分な経験値を積み2年目に兵庫医科大学で研修する際に、立派な研修医生活を送れるよう1年間努力したいと思います。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



(いなもり あや)
稲守 彩

初めまして。この度、神戸掖済会病院の初期研修医として働くことになりました稲守彩(いなもり あや)です。出身は神戸市須磨区です。地元神戸の病院で働くことが出来て大変嬉しく思っています。出身大学は岩手医科大学です。岩手県は面積がとても広く、自然や温泉が沢山あります。おすすめの観光地は、狹



鼻溪や浄土ヶ浜、中尊寺金色堂です。コロナが落ち着いたら是非、観光しに行ってみてください。

神戸掖済会病院に入職してまだ間もないですが、優しい先生方やスタッフの方に恵まれて日々研修しております。

まだまだ慣れないことも多く、沢山のご迷惑をおかけすることとは思いますが、二年間一所懸命頑張りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



(やなぎだ こと)
柳田 湖都

4月から初期研修で神戸掖済会病院にお世話になっております、柳田 湖都(やなぎだ こと)です。神戸市須磨区出身で、愛媛大学を卒業しました。卒後は神戸に戻って研修したいと考えておりましたので、ご縁があって神戸掖済会病院に入職できましたことをとても嬉しく思っています。

1年目はまず救急科・麻酔科から回るコースを選択しました。実際に研修が始まって1ヶ月半が経ち、身体診察や採血、挿管などの手技が苦手であることを痛感しています。これからは患者さんやご家族とのコミュニケーションを大事にしつつ、1日でも早く手技や知識を身につけられるように日々精進する所存です。

至らない点も多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



救急外来より

~~救急室が拡大しました~~

当院の救急患者数は年々増加しており、昨年度は 4,200 台の救急搬送患者、10,000 人を超える独歩・紹介患者さんの受け入れをしてきました。今までは、救急処置室 1 室と回復室 5 床で対応していましたが、2022 年 3 月末に救急外来の処置室 1 室と陰圧室 1 床が増設となりました。これにより、患者さんの状態に応じて、異常の早期発見や迅速な医療介入などの対応がしやすくなりました。また、感染症が疑われる場合には、陰圧室での隔離対応が可能となったため、より感染対策を講じやすくなっています。

二次救急病院として地域医療の一部を担っている病院として、受け入れ体制を強化しつつ、救急医をはじめ多職種と連携を図り、患者さんへより迅速な対応ができるようにしていきたいと考えています。



放射線科・救急室
師長 立助 恵子





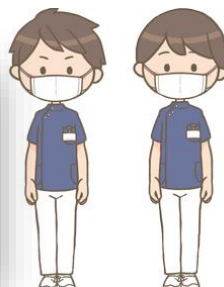
高いポテンシャルを活かし、より高画質・高速化へ！

最新型3T MRI装置を導入

神戸救済会病院では救済（助け救う）の精神に基づきすべての人々に対し心優しい医療を提供し、急性期病院として地域医療に貢献するために、2022年4月にフィリップス社製の3T MRI装置「Ingenia Elition」を兵庫県下3号機として導入し、2022年5月より運用を開始しております。

Ingenia Elition 3Tは新設計の傾斜磁場コイルシステム”Vega グラジエントシステム”や高速撮像技術”Compressed SENSE”の実装により、従来の3T MRIの弱点を克服し、全身領域で臨床価値の高い画像の提供を可能にしました。これに加えて、当院では2016年より導入しております同じくフィリップス社製1.5T MRI装置も大幅にバージョンアップを行い、3T同様のCompressed SENSEを始め、様々な最新鋭の撮像技術を装備しました。これにより、MRI検査は新たな2台体制に生まれ変わっており、部位ごとの装置使い分けをせずとも全身検査を高速かつ高精度に行えるようになっております。

昨年からの工事期間中は1台運用となっており、患者様や近隣ご施設の皆様方には多大なるご迷惑をおかけしてしまっておりました。しかし、新2台体制となった今、検査効率ならびに画質向上に伴うさらなる画像診断能の改善、さらに皆様方の様々なニーズにお応えできる体制を整えております。当院での紹介患者様を含めて是非ともご利用いただければと存じます。また、画像検査に関するご質問がございましたら、何なりとご相談いただければと思います。今後とも何卒宜しくお願いいたします。



放射線技術部

技師長 羽田 健一郎

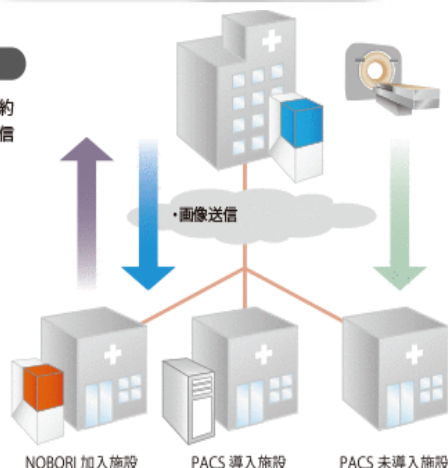
TONARI
(地域医療連携サービス)



月額
利用

導入施設

- ・検査予約
- ・画像送信



- ・予約枠管理
- ・紹介元施設管理
- ・各種マスタ設定

- ・予約受付通知
- ・検査完了通知
- ・画像受信通知
- ・オンラインによる画像、読影レポート参照
- ・検査データダウンロード

参加施設

利用料
0円

当院では院内のPACSをクラウド化することにより開業医様が放射線科の主要検査（MRI、CT、RI、骨密度検査）をWEBにて依頼いただけるシステムを導入いたしました。

このシステムは、当院の検査予約の空きが一目でわかり、かつ予約ができるというサービスです。今までは電話やFAX等で空きを確認し予約をしていたものがインターネット環境さえあれば予約が完了します。

また、このシステムにて予約を行い実施された検査の画像やレポートも併せてWEBにて閲覧できます。これまでのようにCDや所見の到着を待たずに当院のPACS中の画像やレポートを閲覧することができます。（オーダーされた患者様のデータのみ）

画像を自施設内のPACSに取り込んで運用されておりました御施設におかれましては当システムより簡単にDICMデータを取得できますので今まで通りPACSへの取り込みも行えます。

****お問合せ****

078-781-1411（地域医療連携室）



〒655-0004

神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号

TEL：078-781-7811（代表）

FAX：078-781-1511

http://www.kobe-ekisaikai.or.jp